

倍希积液を1回散布（150、100L/10a）したところ、散布後14日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。（別紙1-1-23）

メタラキシル：0.74ppm、<0.05ppm

②④せり

せり（茎葉部）を用いた作物残留試験（2例）において、メタラキシル2%粒剤を1回、湛水土壌全面散布（6kg/10a）したところ、散布後22～35日、21～35日の最大残留量^{注1)}はそれぞれ以下のとおりであった。（別紙1-1-24）

メタラキシル：0.15 ppm、0.34 ppm

②⑤ トマト

トマト（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、メタラキシル25%水和剤の1000倍希积液を計5回散布（300、500L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{注2)}（別紙1-1-25-1）

メタラキシル：0.34 ppm、0.31 ppm

トマト（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、メタラキシル25%水和剤の1000倍希积液を計7回散布（300、500L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{注2)}（別紙1-1-25-2）

メタラキシル：0.30 ppm、0.30 ppm

トマト（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、メタラキシルM 4.2%フロアブルの826倍希积液（1.21g/L）を計4回散布（269、258L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{注2)}（別紙1-1-25-3）

メタラキシルM：0.09 ppm、0.15 ppm

トマト（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、メタラキシルM 5%水和剤の1000倍希积液を計3回散布（300L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{注2)}（別紙1-1-25-4）

メタラキシルM：0.12 ppm

トマト（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、メタラキシルM 5%水和剤の

1000 倍希釈液を計 4 回散布 (300L/10a) したところ、散布後 1~7 日の最大残留量^{注1)} は以下のとおりであった。(別紙 1-1 25-5)

メタラキシルM : 0.11 ppm

トマト (果実) を用いた作物残留試験 (1 例) において、メタラキシル 10%水和剤の 1000 倍希釈液を計 3 回散布 (300L/10a) したところ、散布後 1~7 日の最大残留量^{注1)} は以下のとおりであった。(別紙 1-1 25-6)

メタラキシル : 0.17 ppm

トマト (果実) を用いた作物残留試験 (1 例) において、メタラキシル 10%水和剤の 1000 倍希釈液を計 4 回散布 (300L/10a) したところ、散布後 1~7 日の最大残留量^{注1)} は以下のとおりであった。(別紙 1-1 25-7)

メタラキシル : 0.30 ppm

②⑥ ミニトマト

ミニトマト (果実) を用いた作物残留試験 (2 例) において、メタラキシル 8%水和剤の 400 倍希釈液を計 3 回散布 (200、300L/10a) したところ、散布後 1~14 日の最大残留量^{注1)} は以下のとおりであった。(別紙 1-1 26)

メタラキシル : 0.20 ppm、0.66 ppm

②⑦ ピーマン

ピーマン (果実) を用いた作物残留試験 (2 例) において、メタラキシル 25%水和剤の 1500 倍希釈液を計 3 回、株元灌注 (400mL/株) したところ、散布後 1~21 日の最大残留量^{注1)} は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{注2)} (別紙 1-1 27-1)

メタラキシル : 0.86 ppm、0.44 ppm

ピーマン (果実) を用いた作物残留試験 (2 例) において、メタラキシル 25%水和剤の 1500 倍希釈液を計 5 回、株元灌注 (400mL/株) したところ、散布後 1~14 日の最大残留量^{注1)} は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{注2)} (別紙 1-1 27-2)

メタラキシル : 0.40 ppm、0.38 ppm

ピーマン (果実) を用いた作物残留試験 (2 例) において、メタラキシル 2%粒剤を計 3 回、株元散布 (4g/株) したところ、散布後 1~30 日の最大残留量^{注1)} は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{注2)} (別紙 1-1 27-3)

メタラキシル： 0.38 ppm、0.05 ppm

ピーマン（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、メタラキシル 2%粒剤を計 3 回、株元散布（4g/株）したところ、散布後 15 日、3 日の最大残留量^{注1)}はそれぞれ以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{注2)}（別紙 1-1 27-4）

メタラキシル： 0.31 ppm、0.60 ppm

ピーマン（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、メタラキシルM 1%粒剤を計 3 回、株元散布（3g/株）したところ、散布後 1~7 日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。（別紙 1-1 27-5）

メタラキシルM： 0.11 ppm、0.10 ppm

⑳ししとう

ししとう（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、メタラキシル 2%粒剤を計 3 回、株元散布（3g/株）したところ、散布後 7 日、1 日の最大残留量^{注1)}はそれぞれ以下のとおりであった。（別紙 1-1 28）

メタラキシル： 0.08 ppm、0.05 ppm

㉑なす

なす（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、メタラキシル 10%顆粒水和剤の 1000 倍希釈液を計 4 回散布（200、220L/10a）したところ、散布後 1~14 日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。（別紙 1-1 29-1）

メタラキシル： 0.20 ppm、0.50 ppm

なす（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、メタラキシルM 3.3%フロアブルの 500 倍希釈液を計 3 回散布（200、130~150L/10a）したところ、散布後 1~14 日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{注2)}（別紙 1-1 29-2）

メタラキシルM： 0.08 ppm、0.18 ppm

㉒きゅうり

きゅうり（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、メタラキシル 25%水和剤の 2000 倍希釈液を計 5 回散布（200、500L/10a）したところ、散布後 1~7 日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{注2)}（別紙 1-1 30-1）

メタラキシル： 0.16 ppm、0.39 ppm

きゅうり（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、メタラキシル 25%水和剤の2000倍希釈液を計7回散布（200, 500L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{注2)}（別紙1-1 30-2）

メタラキシル： 0.20 ppm、0.50 ppm

きゅうり（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、メタラキシルM 4.2%水和剤の826倍希釈液（1.21g/L）を計3回散布（300L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{注2)}（別紙1-1 30-3）

メタラキシルM： 0.12 ppm、0.17 ppm

きゅうり（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、メタラキシルM 3.3%水和剤の500倍希釈液を計3回散布（220L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{注2)}（別紙1-1 30-4）

メタラキシルM： 0.18 ppm

きゅうり（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、メタラキシルM 5%水和剤の1000倍希釈液を計4回散布（300L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{注2)}（別紙1-1 30-5）

メタラキシルM： 0.10 ppm、0.13 ppm

きゅうり（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、メタラキシル 10%水和剤の1000倍希釈液を計4回散布（300L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{注2)}（別紙1-1 30-6）

メタラキシル： 0.12 ppm、0.24 ppm

③1 かぼちゃ

かぼちゃ（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、メタラキシル 25%水和剤の2000倍希釈液を計3回散布（300L/10a）したところ、散布後14～30日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{注2)}（別

紙 1 - 1 31 - 1)

メタラキシル : 0.01 ppm、0.01 ppm

かぼちゃ (果実) を用いた作物残留試験 (2 例) において、メタラキシル 10%水和剤の 1000 倍希釈液を生育期に 3 回散布 (300、293L/10a) したところ、散布後 7~14 日の最大残留量^{注1)} は以下のとおりであった。(別紙 1 - 1 31 - 2)

メタラキシル : 0.05 ppm、0.03 ppm

③② すいか

すいか (果実) を用いた作物残留試験 (2 例) において、メタラキシル 8%水和剤の 800 倍希釈液を計 3 回散布 (250、300L/10a) したところ、散布後 7 日の最大残留量^{注1)} は以下のとおりであった。(別紙 1 - 1 32)

メタラキシル : <0.01 ppm、0.02 ppm

③③ メロン

メロン (果実) を用いた作物残留試験 (2 例) において、メタラキシル 25%水和剤の 2000 倍希釈液を計 3 回散布 (200L/10a) したところ、散布後 3 日の最大残留量^{注1)} は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{注2)} (別紙 1 - 1 33 - 1)

メタラキシル : 0.23 ppm、0.04 ppm

メロン (果実) を用いた作物残留試験 (2 例) において、メタラキシル M 3.3%水和剤の 500 倍希釈液を計 3 回散布 (200、250L/10a) したところ、散布後 7~14 日の最大残留量^{注1)} は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{注2)} (別紙 1 - 1 33 - 2)

メタラキシル M : < 0.01 ppm、< 0.01 ppm

③④ ほうれんそう

ほうれんそう (茎葉) を用いた作物残留試験 (2 例) において、種子重量の 0.5%相当のメタラキシル 25%水和剤を種子に粉衣して播種したところ、播種後 31~47 日の最大残留量^{注1)} は以下のとおりであった。(別紙 1 - 1 34 - 1)

メタラキシル : < 0.01 ppm、< 0.01 ppm

ほうれんそう (茎葉) を用いた作物残留試験 (2 例) において、メタラキシル 2%粒剤を播種時に 1 回全面土壌処理 (9kg/10a) したところ、処理後 59~69 日、113~123 日の最大残留量^{注1)} はそれぞれ以下のとおりであった。(別紙 1 - 1 34 - 2)

メタラキシル：<0.1 ppm、0.32 ppm

③⑤ オクラ

オクラ（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、メタラキシル2%粒剤を計3回、土壌表面散布（10kg/10a）したところ、散布後1～14日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。（別紙1-1 35）

メタラキシル：0.10 ppm、0.34 ppm

③⑥ しょうが

しょうが（塊茎）を用いた作物残留試験（2例）において、メタラキシル2%粒剤を計3回、土壌表面散布（20kg/10a）したところ、散布後30～60日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。（別紙1-1 36）

メタラキシル：0.30 ppm、0.31 ppm

③⑦ 葉しょうが

葉しょうが（茎部・塊茎）を用いた作物残留試験（2例）において、メタラキシル2%粒剤を計3回、土壌表面散布（20kg/10a）したところ、散布後21～45日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。（別紙1-1 37）

メタラキシル：0.23 ppm、0.19 ppm

③⑧ たらきの

たらきの（芽部）を用いた作物残留試験（1例）において、メタラキシル2%粒剤を1回、土壌表面散布（20kg/10a）したところ、散布後217日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。（別紙1-1 38-1）

メタラキシル：<0.01 ppm

たらきの（芽部）を用いた作物残留試験（1例）において、メタラキシル2%粒剤を計2回、土壌表面散布（20kg/10a）したところ、散布後186日、229日の最大残留量^{注1)}はそれぞれ以下のとおりであった。（別紙1-1 38-2）

メタラキシル：<0.01 ppm、0.015 ppm

たらきの（芽部）を用いた作物残留試験（3例）において、メタラキシル2%粒剤を計2回、土壌表面散布（10kg/10a）したところ、散布後229日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。（別紙1-1 38-3）

メタラキシル：<0.01 ppm

たらのき（芽部）を用いた作物残留試験（1例）において、メタラキシル 2%粒剤を計 2 回、土壌表面散布（30kg/10a）したところ、散布後 229 日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{注2)}（別紙 1-1 38-4）

メタラキシル：0.046 ppm

③9 うど

うど（茎葉部）を用いた作物残留試験（1例）において、メタラキシル 8%水和剤の 800 倍希釈液を 1 回、根株瞬間浸漬後、伏込栽培した。浸漬処理後 25 日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。（別紙 1-1 39-1）

メタラキシル：0.26 ppm

うど（茎葉部）を用いた作物残留試験（1例）において、メタラキシル 8%水和剤の 800 倍希釈液を 1 回、根株瞬間浸漬後、伏込栽培した。浸漬処理後 25 日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。（別紙 1-1 39-2）

メタラキシル：0.26 ppm

うど（茎葉部）を用いた作物残留試験（1例）において、メタラキシル 8%水和剤の 400 倍希釈液を 1 回、根株瞬間浸漬後、伏込栽培した。浸漬処理後 25 日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{注2)}（別紙 1-1 39-3）

メタラキシル：0.48 ppm

うど（茎葉部）を用いた作物残留試験（1例）において、メタラキシル 8%水和剤の 800 倍希釈液を 1 回、根株瞬間浸漬後、伏込栽培した。浸漬処理後 30 日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。（別紙 1-1 39-4）

メタラキシル：0.02 ppm

うど（茎葉部）を用いた作物残留試験（2例）において、メタラキシル 8%水和剤の 800 倍希釈液を 1 回、根株瞬間浸漬後、伏込栽培した。浸漬処理後 25~45 日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。（別紙 1-1 39-5）

メタラキシル：0.2 ppm、<0.1 ppm

④0 くわい

くわい（塊茎）を用いた作物残留試験（2例）において、メタラキシル 2%粒剤を計 2 回、

湛水散布（6kg/10a）したところ、散布後 21 日、30 日の最大残留量^{注1)}はそれぞれ以下のとおりであった。（別紙 1 - 1 40）

メタラキシル：<0.05 ppm、0.12 ppm

④1 温州みかん

温州みかん（果肉）を用いた作物残留試験（2 例）において、メタラキシル 8%水和剤の 600 倍希釈液を計 2 回散布（400、500L/10a）したところ、散布後 14~28 日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{注2)}（別紙 1 - 1 41 - 1）

メタラキシル：0.04 ppm、0.02 ppm

温州みかん（果皮）を用いた作物残留試験（2 例）において、メタラキシル 8%水和剤の 600 倍希釈液を計 2 回散布（400、500L/10a）したところ、散布後 14~28 日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{注2)}（別紙 1 - 1 41 - 2）

メタラキシル：1.26 ppm、1.66 ppm

④2 いちご

いちご（果実）を用いた作物残留試験（1 例）において、メタラキシル 2%粒剤を定植前に 1 回、畝面土壌混和处理（10kg/10a）したところ、処理後 118 日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。（別紙 1 - 1 42 - 1）

メタラキシル：0.03 ppm

いちご（果実）を用いた作物残留試験（2 例）において、メタラキシル 2%粒剤を定植前に 1 回、畝面土壌混和处理し、メタラキシル 2%粒剤を 1 回マルチ前土壌表面処理（10kg/10a）したところ、処理後 63、89 日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{注2)}（別紙 1 - 1 42 - 2）

メタラキシル：0.13 ppm、0.25 ppm

いちご（果実）を用いた作物残留試験（2 例）において、メタラキシル 10%水和剤の 1000 倍希釈液を計 3 回散布（1000、300L/10a）し、メタラキシル 2%粒剤を土壌混和（10kg/10a）したところ、処理後 77~109 日、86~116 日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{注2)}（別紙 1 - 1 42 - 3）

メタラキシル：0.026 ppm、0.146 ppm

④③ぶどう

小粒種ぶどう(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、メタラキシル 25%水和剤の1250倍希釈液を計1回散布(30L/10a)したところ、散布後44~80日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。
^{注2)} (別紙1-1 43-1)

メタラキシル：0.11 ppm、0.14 ppm

大粒種ぶどう(果実)を用いた作物残留試験(1例)において、メタラキシル 25%水和剤の1250倍希釈液を計1回散布(30L/10a)したところ、散布後49~83日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。
^{注2)} (別紙1-1 43-2)

メタラキシル：0.16 ppm

小粒種ぶどう(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、メタラキシル 25%水和剤の1250倍希釈液を計2回散布(30L/10a)したところ、散布後44~80日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。
^{注2)} (別紙1-1 43-3)

メタラキシル：0.37 ppm、0.08 ppm

大粒種ぶどう(果実)を用いた作物残留試験(1例)において、メタラキシル 25%水和剤の1250倍希釈液を計2回散布(30L/10a)したところ、散布後49~83日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。
^{注2)} (別紙1-1 43-4)

メタラキシル：0.40 ppm

小粒種ぶどう(果実)を用いた作物残留試験(1例)において、メタラキシル 25%水和剤の2500倍希釈液を計2回散布(30L/10a)したところ、散布後45~80日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。
^{注2)} (別紙1-1 43-5)

メタラキシル：0.15 ppm

大粒種ぶどう(果実)を用いた作物残留試験(1例)において、メタラキシル 25%水和剤の2500倍希釈液を計2回散布(30L/10a)したところ、散布後49日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{注2)} (別紙1-1 43-6)

メタラキシル：0.14 ppm

④④ パッションフルーツ

パッションフルーツ（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、メタラキシル10%水和剤の1000倍希釈液を計3回全面散布（300L/10a）したところ、散布後30～45日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。（別紙1-1 44）

メタラキシル： <0.05 ppm、<0.05 ppm

④⑤ ホップ

ホップ（乾花）を用いた作物残留試験（2例）において、メタラキシル2%粒剤を1回、株元処理（20g/株）したところ、処理後122、113日の最大残留量^{注1)}はそれぞれ以下のとおりであった。（別紙1-1 45-1）

メタラキシル： 1.0 ppm、0.6 ppm

ホップ（乾花）を用いた作物残留試験（2例）において、メタラキシル2%粒剤を1回、株元処理（20g/株）し、メタラキシル15%水和剤の500倍希釈液を計4回散布（300～600L/10a）したところ、散布後17、12日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{注2)}（別紙1-1 45-2）

メタラキシル： 5.8 ppm、20.0 ppm

ホップ（乾花）を用いた作物残留試験（2例）において、メタラキシル2%粒剤を1回、株元処理（20g/株）し、メタラキシル15%水和剤の500倍希釈液を計3回散布（150～200、350～700L/10a）したところ、散布後14～44日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{注2)}（別紙1-1 45-3）

メタラキシル： 5.45 ppm、8.63 ppm

④⑥ みょうが（代替）

みょうが（花蕾）を用いた作物残留試験（1例）において、メタラキシル2%粒剤を計2回、土壌表面散布（30kg/10a）したところ、散布後30～37日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{注2)}（別紙1-1 46-1）

メタラキシル： 1.02 ppm

みょうが（花蕾）を用いた作物残留試験（1例）において、メタラキシル2%粒剤を計2回、土壌表面散布（10及び30kg/10a）したところ、散布後27日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{注2)}（別紙1-1 46-2）

メタラキシル： 0.64 ppm

みょうが（花蕾）を用いた作物残留試験（1例）において、メタラキシル2%粒剤を1回、土壌表面散布（30kg/10a）したところ、散布後30～37日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{注2)}（別紙1-1 46-3）

メタラキシル： 0.60 ppm

みょうが（花蕾）を用いた作物残留試験（1例）において、メタラキシル2%粒剤を1回、土壌表面散布（20kg/10a）したところ、散布後30～37日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。（別紙1-1 46-4）

メタラキシル： 0.44 ppm

みょうが（花蕾）を用いた作物残留試験（1例）において、メタラキシル2%粒剤を計4回、土壌表面散布（20kg/10a）したところ、散布後28～62日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{注2)}（別紙1-1 46-5）

メタラキシル： 1.16 ppm

みょうが（花蕾）を用いた作物残留試験（2例）において、メタラキシル2%粒剤を計2回、土壌表面散布（20kg/10a）したところ、散布後39～73日、28～62日の最大残留量^{注1)}はそれぞれ以下のとおりであった。（別紙1-1 46-6）

メタラキシル： 0.35 ppm、0.30 ppm（同圃場）

④7 葉ねぎ

葉ねぎ（茎葉部）を用いた作物残留試験（2例）において、メタラキシル10%水和剤の1000倍希釈液を計3回散布（150L/10a）したところ、散布後14～31日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。（別紙1-1 47）

メタラキシル： < 0.01 ppm、< 0.01 ppm

④8 根深ねぎ

根深ねぎ（茎葉部）を用いた作物残留試験（2例）において、メタラキシル10%水和剤の1000倍希釈液を計3回散布（150L/10a）したところ、散布後14～31日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。（別紙1-1 48）

メタラキシル： < 0.005 ppm、0.011 ppm

なお、これらの国内で実施された作物残留試験成績の結果の概要を、別紙1—1に、海外で実施された結果の概要を別紙1—2にまとめた。

注1) 最大残留量：当該農薬の申請の範囲内で最も多量に用い、かつ最終使用から収穫までの期間を最短とした場合の作物残留試験（いわゆる最大使用条件下の作物残留試験）を実施し、それぞれの試験から得られた残留量。

（参考：平成10年8月7日付「残留農薬基準設定における暴露評価の精密化に関する意見具申」）

注2) 適用範囲内で実施されていない作物残留試験については、適用範囲内で実施されていない条件を斜体で示した。

7. 家畜における残留試験

米国及びカナダにおいて、畜産物に係る基準値が設定されている。

① 泌乳山羊における代謝試験

フェニル環を¹⁴C標識したメタラキシルを、飼料中濃度として76.9 ppmに相当する濃度で4日間にわたり泌乳山羊に強制経口投与した代謝試験において、各組織中に認められた主要代謝物の濃度は、次表のとおりである。

表. メタラキシル及び主要代謝物の各組織中の濃度 (ppm)

分析部位	筋肉 (肢)	筋肉 (腰)	脂肪	肝臓	腎臓	乳汁	
¹⁴ C濃度	0.074	0.065	0.25	1.37	1.06	0.066	
メタラキシル	—	—	—	—	—	—	
代謝物	D	0.014	0.011	0.065	0.185	0.335	0.004
	E	0.009	0.007	0.034	0.110	0.363	0.003
	B	0.004	0.011*	0.007	0.070*	0.029	0.003
	H	0.006	0.004	0.029	0.025	0.036	0.003**
	C1	0.008	0.006	0.007	0.022	0.007	<0.001
	L	0.006	*	0.014	*	0.007	<0.001

—：検出せず

(JMPR提出資料 ABR-90078より)

* 印欄の代謝物Bには、代謝物Lが含まれる。

** JMPRでは、乳汁中に代謝物Hの脂肪酸抱合体が0.058ppm含まれるとしている。

(代謝物の略号)

代謝物B (Cas 96258-85-4)

2-[(3-ヒドロキシ-2,6-ジメチルフェニル)-(2-メトキシアセチル)アミノ]プロピオン酸メチルエステル

代謝物C1 (Cas 75596-99-5)

2-[(2,6-ジメチルフェニル)-(2-メトキシアセチル)アミノ]プロピオン酸

代謝物D (Cas 104390-55-8)

2-[(2,6-ジメチルフェニル)-(2-ヒドロキシアセチル)アミノ]プロピオン酸

代謝物E (Cas 85933-49-9)

2-[(2-ヒドロキシメチル-6-メチルフェニル)-(2-メトキシアセチル)アミノ]プロピオン酸メチルエステル

代謝物H (Cas 66637-79-4)

2-[(2,6-ジメチルフェニル)-(2-ヒドロキシアセチル)アミノ]プロピオン酸メチルエステル

代謝物L (Cas 29183-14-0)

N-(2,6-ジメチルフェニル)-2-ヒドロキシアセトアミド

② 乳牛における残留試験

乳牛に対して、飼料中濃度として、75 ppmに相当する濃度のメタラキシルを28日間にわたって混餌投与し、筋肉、脂肪、肝臓、腎臓及び乳汁に含まれるメタラキシル及び代謝物を、2,6-ジメチルアニリン(2,6-DMA)に分解しメタラキシル当量に換算して残留量が測定されている(定量限界:0.01~0.1 ppm)。

表. 乳牛における残留濃度(ppm)

分析部位	混餌投与濃度 ppm (1頭当り のメタラキシル摂取量 mg/day)	投与期間						
		1日	13日	14日	20日	21日	27日	28日
腰肉	0 (0)	—	—	<0.05	—	—	—	<0.05
	75 (1500)	—	—	0.09	—	<0.05	—	0.06
腿肉	0 (0)	—	—	0.06**	—	—	—	0.07**
	75 (1500)	—	—	0.15	—	0.07	—	0.08
脂肪 (大網)	0 (0)	—	—	<0.05	—	—	—	<0.05
	75 (1500)	—	—	<0.05	—	<0.05	—	<0.05
脂肪 (腎周囲)	0 (0)	—	—	<0.05	—	—	—	<0.05
	75 (1500)	—	—	<0.05	—	<0.05	—	<0.05
肝臓	0 (0)	—	—	<0.10	—	—	—	<0.10
	75 (1500)	—	—	0.96	—	0.14	—	0.12
腎臓	0 (0)	—	—	<0.10	—	—	—	<0.10
	75 (1500)	—	—	5.4	—	0.12	—	0.11
乳汁	0 (0)	<0.01	—	<0.01	—	—	<0.01	—
	75 (1500)	0.02	—	0.02	0.02	—	0.02	—

※ 検出理由は不明であるが、分析試料の汚染と推察されている。(JMPR提出資料 ABR-82052より)

筋肉で0.06~0.15 ppm、肝臓で0.12~0.96 ppm、腎臓で0.11~5.4 ppm、乳汁で0.02 ppmの検出が認められ、脂肪での検出は認められていない。

カナダでは、給餌量と最大理論的飼料由来負荷(MTDB)*に基づいて、乳牛等の腎臓の残留基準を0.85ppm(代謝物を含む)と設定している。米国では、同様の試験成績と栄養バランスを考慮した飼料(RBD; Reasonably Balanced Diet)に、未同定代謝物を考

慮した補正を加えて、飼料負荷(Dietary Burden)を乳牛 44ppm、肉牛 23ppm 及び豚 10ppm と算出し、肝臓及び腎臓の残留基準を 0.4 ppm (代謝物を含む) と設定している (EPA Memorandum 2007 年 4 月 19 日 DP No. 337966)。また、残留飼料を経由した乳汁中における残留については 0.02ppm を超える可能性がないとして、残留基準値を 0.02ppm に設定している。

なお、農林水産省から稲わら及び粗発酵飼料の指導基準値案として、それぞれ 0.5ppm 及び 0.2ppm が示されており、これら値を用いて、メタラキシル及び 2,6-DMA に変換される代謝物の肉類、乳類及び卵類における推定残留値を試算したところ、いずれも 0.01ppm 未満と推定されている。

*:最大理論的飼料由来負荷(Maximum Theoretical Dietary Burden ;MTDB):飼料として用いられる全ての飼料品目に残留基準まで残留していると仮定した場合に、飼料の摂取によって畜産動物が暴露される最大量を示す。飼料中残留濃度として表示される。(参考:Residue Chemistry Test Guidelines OPPTS 860.1480 Meat/Milk/Poultry/Eggs)

8. 産卵鶏における試験

①産卵鶏における代謝試験

フェニル環を ¹⁴C 標識したメタラキシルを、飼料中濃度として 100 ppm に相当する濃度で 4 日間にわたり産卵鶏に強制経口投与した代謝試験において、各組織中に認められた主要代謝物の濃度は、次表のとおりである。

表. メタラキシル及び主要代謝物の各組織中の濃度 (ppm)

分析部位		胸肉	腿肉	脂肪	肝臓	腎臓	心臓	砂囊	皮膚 +脂肪	卵黄	卵白
¹⁴ C濃度		0.554	0.674	0.254	1.391	1.472	0.568	1.416	0.318	0.206	0.179
メタラキシル		0.002	—		0.018	—	—	0.264	—	0.016	0.009
代謝物*	J	0.099	0.146	0.001	0.167	0.148	0.062	0.266	0.028	—	0.044
	D	—	—		0.237	0.075	0.012	—	—	—	—
	E	0.011	0.004		0.013	0.010	0.007	0.006	—	0.046	0.008
	H	—	—		0.009	0.019	—	0.030	—	—	—
	I	—	—		—	0.011	—	0.014	—	—	—

— : 検出せず

(JMPR 提出資料 ABR-90077 より)

* JMPR では、代謝物 P (P1 と異性体 P2 の和) が、腿肉に 0.312ppm、脂肪に 0.018 ppm、卵黄に 0.072ppm、卵白に 0.056ppm みられ、主要代謝物としている。

(代謝物の略号)

代謝物 D (Cas 104390-55-8)

- 2-[(2,6-ジメチルフェニル)-(2-ヒドロキシアセチル)アミノ]プロピオン酸
 代謝物 E (Cas 85933-49-9)
 2-[(2-ヒドロキシメチル-6-メチルフェニル)-(2-メトキシアセチル)アミノ]プロピオン酸メチル
 エステル
 代謝物 H (Cas 66637-79-4)
 2-[(2,6-ジメチルフェニル)-(2-ヒドロキシアセチル)アミノ]プロピオン酸メチルエステル
 代謝物 I
 2-[(2-カルボキシ-6-メチルフェニル)-(2-メトキシアセチル)アミノ]プロピオン酸メチルエステ
 ル
 代謝物 J (Cas 104390-56-9)
 2-[(2-カルボキシ-6-メチルフェニル)-(2-メトキシアセチル)アミノ]プロピオン酸
 代謝物 P1
 2-[(2-カルボキシ-6-メチルフェニル)-(2-ヒドロキシアセチル)アミノ]プロピオン酸
 代謝物 P2
 2-[(2-カルボキシ-6-メチルフェニル)-(2-ヒドロキシアセチル)アミノ]プロピオン酸 (P1 の異性体)

② 産卵鶏における残留試験

産卵鶏に対して、飼料中濃度として、1.5, 5 ppm に相当するメタラキシルを 28 日間にわたって混餌投与し、筋肉、脂肪、肝臓及び鶏卵に含まれるメタラキシル及び代謝物を、2,6-DMA に分解しメタラキシル当量に換算して残留量が測定されている (定量限界 : 0.05~0.1 ppm)。

表. 産卵鶏における残留濃度 (ppm)

分析部位	メタラキシルの混餌投与濃度 (ppm)	投与期間			
		7 日	14 日	21 日	28 日
胸肉+腿肉	0	< 0.05	—	< 0.05	—
	1.5	< 0.05	< 0.05	< 0.05	< 0.05
	5.0	< 0.05	< 0.05	< 0.05	< 0.05
脂肪	0	< 0.05	—	< 0.05	—
	1.5	< 0.05	< 0.05	< 0.05	< 0.05
	5.0	< 0.05	< 0.05	< 0.05	< 0.05
肝臓	0	< 0.1	—	< 0.1	—
	1.5	< 0.1	< 0.1	< 0.1	< 0.1
	5.0	< 0.1	< 0.1	< 0.1	< 0.1
鶏卵	0	< 0.05	—	< 0.05	—
	1.5	< 0.05	< 0.05	< 0.05	< 0.05
	5.0	< 0.05	< 0.05	< 0.05	< 0.05

(メーカー資料 Project Number 409006 より)

各組織中のメタラキシルの残留は、いずれの混餌投与濃度、いずれの時期においても 定量限界未満とされている

①の産卵鶏の代謝試験において、フェニル環を¹⁴C標識したメタラキシルを、飼料中濃度として100 ppmに相当する濃度で、4日間にわたって強制経口投与し、筋肉、脂肪、肝臓、腎臓及び鶏卵に含まれる放射能をメタラキシル当量に換算して残留量が測定されている。

表. 産卵鶏における残留放射能濃度(ppm)

組織名	放射能濃度 (メタラキシル相当 ppm)			
胸肉	0.554			
腿肉	0.674			
脂肪	0.254			
肝臓	1.391			
腎臓	1.472			
砂囊	1.416			
心臓	0.568			
皮膚及び付着脂肪	0.318			
分析部位	投与1日	投与2日	投与3日	投与4日
卵黄	0.014	0.066	0.138	0.206
卵白	0.127	0.166	0.160	0.179

①の産卵鶏の代謝試験成績から一部を再掲 (JMPR 提出資料 ABR-90077 より)

筋肉で 0.554~0.674 ppm、脂肪で 0.254 ppm、肝臓で 1.391 ppm、腎臓で 1.472 ppm、卵黄、卵白でそれぞれ 0.014~0.206 ppm、0.127~0.179 ppm の検出が認められているが、米国及びカナダで飼料作物を含む農作物に設定されている残留基準の最大値は、20 ppm となっている。

カナダでは、給餌量と最大理論的飼料由来負荷(MTDB)*に基づいて、産卵鶏の腎臓の残留基準を 0.7ppm (代謝物を含む) と設定している。米国では、同様の試験成績と栄養バランスを考慮した飼料 (RBD ; Reasonably Balanced Diet) に、未同定代謝物を考慮した補正を加えて、飼料負荷(Dietary Burden)を 10ppm と算出し、肝臓及び腎臓の残留基準を 0.4 ppm (代謝物を含む) と設定している (EPA Memorandum 2007 年 4 月 19 日 DP No. 337966)。また、両国とも飼料を経由した鶏卵中における残留については 0.05ppm を超える可能性がないとして、残留基準値を 0.05ppm と設定している。

*:最大理論的飼料由来負荷(Maximum Theoretical Dietary Burden ;MTDB):飼料として用いられる全ての飼料品目に残留基準まで残留していると仮定した場合に、飼料の摂取によって畜産動物が暴露される最大量を示す。飼料中残留濃度として表示される。(参考:Residue Chemistry Test Guidelines OPPTS 860.1480 Meat/Milk/Poultry/Eggs)

9. ADIの評価

食品安全基本法（平成15年法律第48号）第24条第1項第1号の規定に基づき、平成15年7月1日付け厚生労働省発食安第0701015号及び平成19年5月22日付け厚生労働省発食安第0522004号により 食品安全委員会あて意見を求めたところ、メタラキシル及びメタラキシルMに係る食品健康影響評価について、以下のとおり評価されている。

無毒性量：2.2mg/kg 体重/day
(動物種) ラット
(投与方法) 混餌（メタラキシル）
(試験の種類) 慢性毒性/発がん性併合試験
(期間) 2年間
安全係数：100
ADI：0.022 mg/kg 体重/day

10. 諸外国における状況

2002年にJMPRの毒性評価が行われ、国際基準は、メタラキシルについて、穀類、大豆、ラッカセイ、てんさい、キャベツ、たまねぎ、にんじん等に設定されている。

米国、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド及び欧州連合（EU）について、残留基準値を調査したところ、米国において小豆類、ばれいしょ、だいこん、ねぎ、トマト、核果類、いちご、ブルーベリー、ナッツ類、かんきつ類、ぶどう、畜産物等に、カナダにおいて小麦、大豆、てんさい、キャベツ、はなやさい、エンダイブ、レタス、アスパラガス、にんじん、かぼちゃ、ほうれん草、りんご、アボガド、ひまわり(種子)、畜産物等に、オーストラリアにおいて 仁果、パイナップル、マカデミナッツ等に、ニュージーランドにおいて ベリー類等に、EUにおいて たまねぎ、ニンニク、かんきつ類、茶等に、残留基準値が設定されている。いずれの国及び地域においても、現段階では、メタラキシルの基準値がメタラキシルMにも適用されるものとなっている。

11. 基準値案

(1) 残留の規制対象

① 農産物

メタラキシル及びメタラキシルM本体

② 畜産物

メタラキシル及びメタラキシルM並びに代謝物Dをメタラキシル及びメタラキシルMに換算したものの和

植物体内運命試験において、水稻、レタス、水稻茎葉、ぶどう果実、ばれいしょ塊茎から、代謝物E（CAS 85933-49-9）が、遊離体と糖抱合体の合計で、総残留放射能（TRR）の

10～20%検出されているが、動物体内運命試験の代謝物としても認められ、親化合物よりも毒性が低いと示唆されることから、農産物の規制対象には代謝物を含めないこととした。

一方、米国及びカナダの基準値を参照した農作物については、代謝物を含む残留値として運用されていることから、親化合物の残留値とするため、植物体内運命試験成績から、親化合物と2,6-DMAに変換されると推測される代謝物の合計に対する親化合物の推定最大割合と推測される0.7 (1/1.5) を乗じ、一律基準を超える値について、下2桁目を切り上げてメタラキシル及びメタラキシルM本体相当の基準値を設定した。

畜産物については、カナダ及び米国において基準が設定されており、分析対象に代謝物が含まれている。泌乳山羊の組織中の主要残留物は、筋肉、肝臓及び脂肪で代謝物D (CAS 104390-55-8)、腎臓で代謝物E (CAS 85933-49-9)、乳で代謝物H (CAS 66637-79-4)の脂肪酸抱合体とされ、親化合物の検出は認められていない。産卵鶏においては、肝臓、腎臓及び卵白で代謝物J (CAS 104390-56-9) 及びDが主要代謝物とされ、親化合物以上の検出もみられている。毒性については、P1 と P2 を除くいずれの代謝物（遊離体）も、親化合物を上回る毒性は認められていない。同試験成績の評価を行った JMPR では、メタラキシルの残留量について、検出されないか又は一過性に検出されるものとして、現時点では、畜産物への基準設定は行われていない。

親化合物の検出が認められた組織等は 鶏の一部に限定されており、親化合物は残留の指標にならないことも考えられることから、2004年の JMPR の評価、カナダの規制対象として代謝物を含めた基準設定が行われていることを考慮し、また、他の農薬の残留との量り込みの観点から分析対象を限定することが妥当と考えて、畜産物の規制対象をメタラキシル及びメタラキシルM並びに代謝物Dとした。米国の基準値は、カナダでの親化合物及び2,6-DMAに変換されると推測される代謝物のほか、2-ヒドロキシメチル-6-メチルアニリン (HMMA) 部分を有する代謝物や未同定代謝物を含め、すべてを2,6-DMA関連物質と仮定し、残留値を同定率で補正して、代謝物を含めたメタラキシル相当量の基準値として運用しているものと推察される。カナダの基準値は 米国で実施された同試験成績を基に評価を行ったものとされており、基準設定に当たり、カナダの基準値を参照する際、動物体内運命試験成績から、親化合物と2,6-DMAに変換されると推測される代謝物の合計に対する親化合物と代謝物Dの推定最大割合と推測される0.2～0.3の係数（家畜について0.3、家きんについて0.2）を乗じ、一律基準以上の値について、端数を切り上げて、メタラキシル及びメタラキシルM相当の基準値（代謝物Dを含む）として設定した。

なお、食品安全委員会によって作成された食品健康影響評価においては、農産物中の暴露評価対象物質として、メタラキシル及びメタラキシルM（親化合物のみ）を設定している。

(2) 基準値案

別紙のとおりである。

(3) 暴露評価

各食品について基準値案の上限までメタラキシル及びメタラキシルM（畜産物においては、代謝物Dを含む）が残留していると仮定した場合、国民栄養調査結果に基づき試算される1日あたりに摂取する農薬の量（理論最大一日摂取許容量（TMDI））のADIに対する比率は、以下のとおりである。詳細な暴露評価は別紙3参照。

なお、本暴露評価は、各食品分類において、加工・調理による残留農薬の増減が全くないとの仮定の下に行った。

	TMDI/ADI (%) 注)
国民平均	31.6
幼小児（1～6歳）	64.4
妊婦	27.0
高齢者（65歳以上）	29.0

(4) 暴露評価

本農薬については、平成17年11月29日付け厚生労働省告示第499号により、食品一般の成分規格7に食品に残留する量の限度（暫定基準）が定められているが、今般、残留基準の見直しを行うことに伴い、暫定基準は削除される。

メタラキシル及びメタラキシルMの国内作物残留試験一覧表

	農作物	試験圃場数	試験条件				最大残留量 (ppm) 【メタラキシル /メタラキシルM】
			剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
1-1	水稲 (玄米)	2	メタラキシル 25%水和剤+ メタラキシル 2%粒剤	500ppm種子浸漬 +育苗箱処理 80g/箱	2回	134日	圃場A:<0.01(#)
						142日	圃場B:<0.01(#)
1-2	水稲 (玄米)	2	メタラキシル 25%水和剤+ メタラキシル 2%粒剤+ メタラキシル 2%粒剤	500ppm種子浸漬 +育苗箱処理 +灌水散布(2回) 80g/箱+ 12.5kg/10a(2回)	4回	93日	圃場A:<0.01
						70日	圃場B: 0.02
1-3	水稲 (玄米)	2	メタラキシル 0.5%粉剤+ メタラキシル 4%液剤+ メタラキシル 2%粒剤	育苗箱処理+ 500倍育苗箱処理(2回)+ 灌水散布(2回) 8g/箱+ 500mL/箱(2回)+ 60g/10a(2回)	5回	45日	圃場A: 0.06(#)
						45日	圃場B: 0.028(#)
2-2	だいず (乾燥子実)	2	メタラキシル 15%水和剤	粉衣 種子重量の0.5%	1回	143日	圃場A:<0.005
						130日	圃場B:<0.005
2-3	だいず (乾燥子実)	2	メタラキシル 10%水和剤	500倍散布 200L, 100L/10a	3回	21日	圃場A:<0.005
						21日	圃場B:<0.005
3	あずき (乾燥子実)	2	メタラキシル 10%水和剤	500倍散布 120, 200L/10a	3回	21日	圃場A: 0.014
						21日	圃場B: 0.028
4-1	ばれいしょ (塊茎)	2	メタラキシル 25%水和剤	1000倍散布 100, 500L/10a	4回	6日	圃場A: <0.05(#)
						14日	圃場B: 0.06(#)
4-2	ばれいしょ (塊茎)	2	メタラキシル 25%水和剤	1000倍散布 100, 500L/10a	6回	7日	圃場A: 0.11(#)
						7日	圃場B: 0.16(#)
4-3	ばれいしょ (塊茎)	2	メタラキシルM 4.2%水和剤 (フロアブル)	413倍散布 (2.42g/L) 150L/10a	3回	7, 14, 21日	圃場A: / <0.01(#)
						7, 14, 21日	圃場B: / 0.01(#)
5-1	こんにゃくいも (球茎)	2	メタラキシル 1.5%粉剤	作条処理 10, 20kg/10a	1回	139日	圃場A: 0.01
						168日	圃場B: 0.02
5-2	こんにゃくいも (球茎)	2	メタラキシル 1.5%粉剤	全面土壌混和 20kg/10a	1回	139日	圃場A: 0.01
						168日	圃場B: 0.06
5-3	こんにゃくいも (球茎)	2	メタラキシル 2%粒剤	植付時全面土壌混和 15kg/10a	1回	149日	圃場A:<0.008
						158日	圃場B:<0.008
5-4	こんにゃくいも (球茎)	3	メタラキシル 2%粒剤	植付時植溝処理 5kg/10a	1回	149日	圃場A:<0.008
						158日	圃場B:<0.008
						141日	圃場C:<0.008
5-5	こんにゃくいも (球茎)	2	メタラキシル 2%粒剤	植付時植溝処理 10kg/10a	1回	149日	圃場A:<0.008
						158日	圃場B:<0.008
5-6	こんにゃくいも (球茎)	3	メタラキシル 2%粒剤	植付時植溝処理+ 培土時株元散布 5kg/10a+5kg/10a	2回	114日	圃場A:<0.008(#)
						133日	圃場B:<0.008(#)
						103日	圃場C:<0.008(#)
5-7	こんにゃくいも (球茎)	2	メタラキシル 2%粒剤	培土時土壌表面散布 5kg/10a	1回	151, 158, 165日	圃場A:<0.05
						99, 106, 113日	圃場B:<0.05
6	さとうきび (茎部)	2	メタラキシル 0.5%粉剤	植溝土壌混和 5kg/10a	1回	243日	圃場A:<0.01
						243日	圃場B:<0.01

	農作物	試験圃場数	試験条件				最大残留量 (ppm) 【メタラキシル /メタラキシルM】
			剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
7-1	だいこん (根部)	2	メタラキシル 25%水和剤	粉衣 種子重量の0.5%	1回	47日	圃場A:<0.04
						64日	圃場B:<0.04
7-3	だいこん (根部)	2	メタラキシル 2%粒剤	播種時作条土壌混和处理 9kg/10a	1回	53日	圃場A: 0.03
						50日	圃場B: 0.05
7-2	だいこん (葉部)	2	メタラキシル 25%水和剤	粉衣 種子重量の0.5%	1回	47日	圃場A:<0.04
						64日	圃場B:<0.04
7-4	だいこん (葉部)	2	メタラキシル 2%粒剤	播種時作条土壌混和处理 9kg/10a	1回	53日	圃場A: 0.04
						50日	圃場B: 0.05
8-1	かぶ (根部)	2	メタラキシル 2%粒剤	播種時全面土壌混和处理 10kg/10a	1回	91日	圃場A:<0.1
						85日	圃場B:<0.1
8-2	かぶ (葉部)	2	メタラキシル 2%粒剤	播種時全面土壌混和处理 10kg/10a	1回	91日	圃場A:<0.1
						85日	圃場B:<0.1
9	わさびだいこん (西洋ワサビ) (根部)	2	メタラキシル 10%水和剤	500倍散布 400, 200L/10a	3回	14日	圃場A:<0.02
						14日	圃場B: 0.03
10-1	はくさい (茎葉)	2	メタラキシル 25%水和剤	1000倍散布 200, 500L/10a	2回	7, 14, 21日	圃場A: 0.20(＃)
						7, 14, 21日	圃場B: 0.148(＃)
10-2	はくさい (茎葉)	2	メタラキシル 25%水和剤	1000倍散布 200, 500L/10a	4回	7, 14, 21日	圃場A: 0.071(＃) ※
						7, 14, 21日	圃場B: 0.21(＃)
10-3	はくさい (茎葉)	2	メタラキシル 25%水和剤	1000倍散布 200, 500L/10a	6回	7, 14, 21日	圃場A: 0.14(＃)
						7, 14, 21日	圃場B: 0.159(＃)
10-4	はくさい (茎葉)	2	メタラキシル 8%水和剤	粉衣(1回)+800倍散布(3回) 種子重量の0.5%+200L/10a	4回	7日	圃場A: 0.020
						7日	圃場B: 0.088
10-5	はくさい (茎葉)	2	メタラキシルM 3.3%水和剤 (フロアブル)	500倍散布 220, 250~300L/10a	3回	7, 14日	圃場A: / 0.02(＃)
						7, 14日	圃場B: / 0.03(＃)
11-1	キャベツ (葉球)	2	メタラキシル 25%水和剤	粉衣 種子重量の0.5%	1回	83日	圃場A:<0.01
						115日	圃場B:<0.01
11-2	キャベツ (葉球)	2	メタラキシル 10%水和剤	1000倍散布 200, 200~250L/10a	3回	30日	圃場A: 0.02
						30日	圃場B: 0.06
12	こまつな (茎葉)	2	メタラキシル 2%粒剤	播種前全面土壌混和处理 10kg/10a	1回	21日	圃場A: 0.20
						21日	圃場B: 0.44
13	みずな (茎葉)	2	メタラキシル 2%粒剤	全面土壌混和处理 10kg/10a	1回	21日	圃場A: 1.02
						21日	圃場B: 0.40
14	チンゲンサイ (茎葉)	2	メタラキシル 2%粒剤	全面土壌混和处理 9kg/10a	1回	25日	圃場A: 0.52
						25日	圃場B: 0.16
15	ブロッコリー (花蕾)	2	メタラキシル 10%水和剤	1000倍散布 300, 100~280L/10a	3回	21日	圃場A:<0.1
						21日	圃場B:<0.01
16	ひろしまな (その他のアブラナ科野菜) (茎葉)	2	メタラキシル 8%水和剤	600倍散布 150L/10a	1回	7日	圃場A: 0.26
						7日	圃場B: 0.25
17	タアサイ (その他のアブラナ科野菜) (茎葉)	2	メタラキシル 2%粒剤	全面土壌混和处理 9kg/10a	1回	28日	圃場A: 0.26(＃) ※
						28日	圃場B:<0.05(＃)

	農作物	試験圃場数	試験条件				最大残留量 (ppm) 【メタラキシル /メタラキシルM】
			剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
18-1	たまねぎ (鱗茎)	2	メタラキシル 25%水和剤	1000倍散布 100, 200L/10a	5回	7, 14, 21日	圃場A:<0.01
						7, 14, 21日	圃場B: 0.028 ※
18-2	たまねぎ (鱗茎)	2	メタラキシル 25%水和剤	湿粉衣 種子重量の0.5%	1回	166日	圃場A:<0.01
						245日	圃場B:<0.01
18-3	たまねぎ (鱗茎)	2	メタラキシル 25%水和剤+ 8%水和剤	湿粉衣+400倍散布 (3回) 種子重量の0.5%+ 100, 150L/10a	4回	7, 14日	圃場A:<0.01
						7, 14日	圃場B:<0.01
18-4	たまねぎ (鱗茎)	2	メタラキシル 10%水和剤	8倍空中散布 1.5~1.8L/10a	3回	7日	圃場A:<0.01
						7日	圃場B:<0.01
18-5	たまねぎ (鱗茎)	2	メタラキシルM 3.3%水和剤 (フロアブル)	500倍散布 300, 200L/10a	3回	7日	圃場A: / <0.01 (#)
						7日	圃場B: / <0.01 (#)
19	ねぎ (茎葉)	2	メタラキシルM 3.3%水和剤 (フロアブル)	500倍散布 300, 200L/10a	3回	14日	圃場A: / <0.02 (#)
						14日	圃場B: / <0.03 (#)
48	根深ねぎ (ねぎ) (茎葉)	2	メタラキシル 10%水和剤	1000倍散布 150L/10a	3回	14, 21, 30日	圃場A:<0.005
						14, 21, 30日	圃場B:<0.005
47	薬ねぎ (ねぎ) (茎葉)	2	メタラキシル 10%水和剤	1000倍散布 150L/10a	3回	14, 21, 30日	圃場A:<0.01
						14, 21, 31日	圃場B:<0.01
20-1	らっきょう (その他のゆり科野菜) (鱗茎)	1	メタラキシル 10%水和剤	500倍散布 150L/10a	4回	21日	圃場A:<0.05 (#)
20-2	らっきょう (その他のゆり科野菜) (鱗茎)	1	メタラキシル 10%水和剤	500倍散布 150L/10a	3回	186日	圃場A:<0.05
20-3	らっきょう (その他のゆり科野菜) (鱗茎)	1	メタラキシル 10%水和剤	750倍散布 150L/10a	3回	186日	圃場A:<0.05
20-4	らっきょう (その他のゆり科野菜) (鱗茎)	1	メタラキシル 10%水和剤	500倍散布 300g/10a	4回	30日	圃場A:0.17 (#) ※
20-5	らっきょう (その他のゆり科野菜) (鱗茎)	2	メタラキシル 10%水和剤	500倍散布 150, 250L/10a	3回	30日	圃場A:<0.1
						30日	圃場B:<0.1
21	にんじん (根部)	2	メタラキシル 25%水和剤	粉衣 種子重量の0.5%	1回	107日	圃場A:<0.01
						120日	圃場B:<0.01
22-1	パセリ (展開葉)	2	メタラキシル 2%粒剤	株元散布 10kg/10a	3回	22, 32, 41日	圃場A: 0.22
						22, 32, 41日	圃場B: 0.46
22-2	パセリ (展開葉)	2	メタラキシル 2%粒剤	株元散布 20kg/10a	3回	28日	圃場A: 0.40
						22日	圃場B: 0.56
23	みつば (茎葉)	2	メタラキシル 8%水和剤	800倍散布 150, 100L/10a	1回	14日	圃場A: 0.74
						14日	圃場B:<0.05
24	せり (その他のせり科野菜) (茎葉)	2	メタラキシル 2%粒剤	湛水土壌全面散布 6kg/10a	1回	22日	圃場A: 0.15
						21日	圃場B: 0.34

	農作物	試験圃場数	試験条件				最大残留量 (ppm) 【メタラキシル /メタラキシルM】
			剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
25-1	トマト (果実)	2	メタラキシル 25%水和剤	1000倍散布 300, 500L/10a	5回	1日	圃場A: 0.34(＃)
						1日	圃場B: 0.31(＃)
25-2	トマト (果実)	2	メタラキシル 25%水和剤	1000倍散布 300, 500L/10a	7回	1, 3, 7日	圃場A: 0.30(＃)
						1, 3, 7日	圃場B: 0.30(＃)
25-3	トマト (果実)	2	メタラキシルM 4.2%水和剤	826倍散布 269, 258L/10a	4回	1, 3, 7日	圃場A: / 0.09(＃)
						1, 3, 7日	圃場B: / 0.15(＃)
25-4	トマト (果実)	1	メタラキシルM 5%水和剤	1000倍散布 190~270, 260L/10a	3回	1, 3, 7日	圃場A: / 0.12(＃)
25-5	トマト (果実)	1	メタラキシルM 5%水和剤	1000倍散布 190~270, 260L/10a	4回	1, 3, 7日	圃場A: / 0.11(＃)
25-6	トマト (果実)	1	メタラキシル 10%水和剤	1000倍散布 190~270, 260L/10a	3回	1, 3, 7日	圃場A: 0.17
25-7	トマト (果実)	1	メタラキシル 10%水和剤	1000倍散布 190~270, 260L/10a	4回	1, 3, 7日	圃場A: 0.30
26	ミニトマト (果実)	2	メタラキシル 8%水和剤	400倍散布 200, 300L/10a	3回	1日	圃場A: 0.20
						1日	圃場B: 0.66
27-1	ピーマン (果実)	2	メタラキシル 25%水和剤	1500倍株元灌注 400mL/株	3回	1, 3, 7, 14, 21日	圃場A: 0.86(＃) ※
						1, 3, 7, 14日	圃場B: 0.44(＃)
27-2	ピーマン (果実)	2	メタラキシル 25%水和剤	1500倍株元灌注 400mL/株	5回	1, 3, 7日	圃場A: 0.40(＃)
						1, 3, 7, 14日	圃場B: 0.38(＃)
27-3	ピーマン (果実)	2	メタラキシル 2%粒剤	株元散布 4g/株	3回	7日	圃場A: 0.38(＃)
						1日	圃場B: 0.05(＃)
27-4	ピーマン (果実)	2	メタラキシル 2%粒剤	株元散布 4g/株	3回	15日	圃場A: 0.31(＃)
						3日	圃場B: 0.60(＃)
27-5	ピーマン (果実)	2	メタラキシルM 1%粒剤	株元散布 3g/株	3回	1, 3, 7日	圃場A: 0.11
						1, 3, 7日	圃場B: 0.10
29-1	なす (果実)	2	メタラキシル 10%水和剤	1000倍散布 200, 220L/10a	4回	1日	圃場A: 0.20
						1日	圃場B: 0.50
29-2	なす (果実)	2	メタラキシルM 3.3%フロアブル	500倍散布 200, 130~150L/10a	3回	1, 7, 14日	圃場A: 0.08(＃)
						1, 7, 14日	圃場B: 0.18(＃)
28	ししとう (その他のなす科野菜)	2	メタラキシル 2%粒剤	株元散布 3g/株	3回	7日	圃場A: 0.08
						1日	圃場B: 0.05
30-1	きゅうり (果実)	2	メタラキシル 25%水和剤	2000倍散布 200, 500L/10a	5回	1日	圃場A: 0.16(＃)
						1日	圃場B: 0.39(＃)
30-2	きゅうり (果実)	2	メタラキシル 25%水和剤	2000倍散布 200, 500L/10a	7回	1, 3, 7日	圃場A: 0.20(＃)
						1, 3, 7日	圃場B: 0.50(＃)
30-3	きゅうり (果実)	2	メタラキシルM 4.2%フロアブル	826倍散布 300L/10a	3回	1, 3, 7日	圃場A: / 0.12(＃)
						1, 3, 7日	圃場B: / 0.17(＃)
30-4	きゅうり (果実)	1	メタラキシルM 3.3%フロアブル	500倍散布 220L/10a	3回	1, 3, 7日	圃場A: / 0.18(＃)
30-5	きゅうり (果実)	2	メタラキシルM 5%水和剤	1000倍散布 300L/10a	4回	1, 3, 7日	圃場A: / 0.10(＃)
						1, 3, 7日	圃場B: / 0.13(＃)
30-6	きゅうり (果実)	2	メタラキシル 10%水和剤	1000倍散布 300L/10a	4回	1, 3, 7日	圃場A: 0.12(＃)
						1, 3, 7日	圃場B: 0.24(＃)

	農作物	試験圃場数	試験条件				最大残留量 (ppm) 【メタラキシル /メタラキシルM】
			剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
31-1	かぼちゃ (果実)	2	メタラキシル 25%水和剤	2000倍散布 300L/10a	3回	14, 21, 30日	圃場A: 0.01 (#)
						14, 21, 30日	圃場B: 0.01 (#)
31-2	かぼちゃ (果実)	2	メタラキシル 10%水和剤	1000倍散布 300, 293L/10a	3回	7日	圃場A: 0.05
						7日	圃場B: 0.03
32	すいか (果実)	2	メタラキシル 8%水和剤	800倍散布 250, 300L/10a	3回	7日	圃場A: <0.01
						7日	圃場B: 0.02
33-1	メロン (果実)	2	メタラキシル 25%水和剤	2000倍散布 200L/10a	3回	3日	圃場A: 0.23 (#)
						3日	圃場B: 0.04 (#)
33-2	メロン (果実)	2	メタラキシルM 3.3%水和剤	500倍散布 300, 250L/10a	3回	7, 14日	圃場A: / <0.01 (#)
						7, 14日	圃場B: / <0.01 (#)
34-1	ほうれんそう (茎葉)	2	メタラキシル 25%水和剤	粉衣 種子重量の0.5%	1回	40, 47日	圃場A: <0.01
						31, 38日	圃場B: <0.01
34-2	ほうれんそう (茎葉)	2	メタラキシル 2%粒剤	播種時全面土壌混和处理 9kg/10a	1回	59日	圃場A: <0.1
						113日	圃場B: 0.32
35	オクラ (果実)	2	メタラキシル 2%粒剤	土壌表面散布 10kg/10a	3回	1日	圃場A: 0.10
						7日	圃場B: 0.34
36	しょうが (塊茎)	2	メタラキシル 2%粒剤	土壌表面散布 20kg/10a	3回	60日	圃場A: 0.30
						46日	圃場B: 0.31
37	薬しょうが (しょうが) (茎部, 塊茎)	2	メタラキシル 2%粒剤	土壌表面散布 20kg/10a	3回	45日	圃場A: 0.23
						30日	圃場B: 0.19
2-1	だいず (えだまめ)	2	メタラキシル 15%水和剤	粉衣 種子重量の0.5%	1回	108日	圃場A: <0.005 (#)
						100日	圃場B: <0.005 (#)
38-1	たらのき (その他の野菜) (芽部)	1	メタラキシル 2%粒剤	土壌表面散布 20kg/10a	1回	217日	圃場A: <0.01
38-2	たらのき (その他の野菜) (芽部)	2	メタラキシル 2%粒剤	土壌表面散布 20kg/10a	2回	186日	圃場A: <0.01
						229日	圃場B: 0.015
38-3	たらのき (その他の野菜) (芽部)	1	メタラキシル 2%粒剤	土壌表面散布 20kg/10a	2回	229日	圃場A: <0.008
38-4	たらのき (その他の野菜) (芽部)	1	メタラキシル 2%粒剤	土壌表面散布 30kg/10a	2回	229日	圃場A: 0.046
39-1	うど (その他の野菜) (茎葉)	1	メタラキシル 8%水和剤	800倍根株瞬間浸漬	1回	25日	圃場A: 0.26
39-2	うど (その他の野菜) (茎葉)	1	メタラキシル 8%水和剤	800倍根株瞬間浸漬	1回	25日	圃場B: 0.26
39-3	うど (その他の野菜) (茎葉)	1	メタラキシル 8%水和剤	400倍根株瞬間浸漬	1回	25日	圃場A: 0.48 (#)
39-4	うど (その他の野菜) (茎葉)	2	メタラキシル 8%水和剤	800倍根株瞬間浸漬	1回	20, 30日	圃場A: 0.02
39-5	うど (その他の野菜) (茎葉)	2	メタラキシル 8%水和剤	根株瞬間浸漬 800倍	1回	25, 35, 45日	圃場A: 0.2
						25, 35, 45日	圃場B: <0.1
40	くわい (その他の野菜) (塊茎)	2	メタラキシル 2%粒剤	湛水散布 6kg/10a	2回	21日	圃場A: <0.05
						30日	圃場B: 0.12